

2011年3月期 決算説明会

2011年5月27日（金） 代表取締役社長 中川 博司



1. 2011年3月期 決算概要
2. 受注状況について
3. 次期（2012年3月期）の計画
4. 事業展望と課題の進捗状況

1. 2011年3月期 決算概要

2011年3月期 連結業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	前期	2011年3月期	対前期	
	2009年4月-2010年3月	2010年4月-2011年3月	金額	増減率
売上高	3,750	3,937	+186	+5.0%
売上総利益	1,032	963	△69	△6.7%
販管費・一般管理費	864	833	△30	△3.5%
営業利益	168	129	△39	△23.2%
経常利益	153	74	△79	△51.6%
当期純利益	66	21	△45	△67.7%

業績予想との対比

(単位：百万円)

	2011/2/8 発表 業績予想	2011年3月期	対予想	
	2010年4月-2011年3月	2010年4月-2011年3月	金額	増減率
売上高	3,918	3,937	+19	+0.5%
営業利益	91	129	+37	+40.8%
経常利益	38	74	+35	+91.2%
当期純利益	3	21	+18	+542.7%

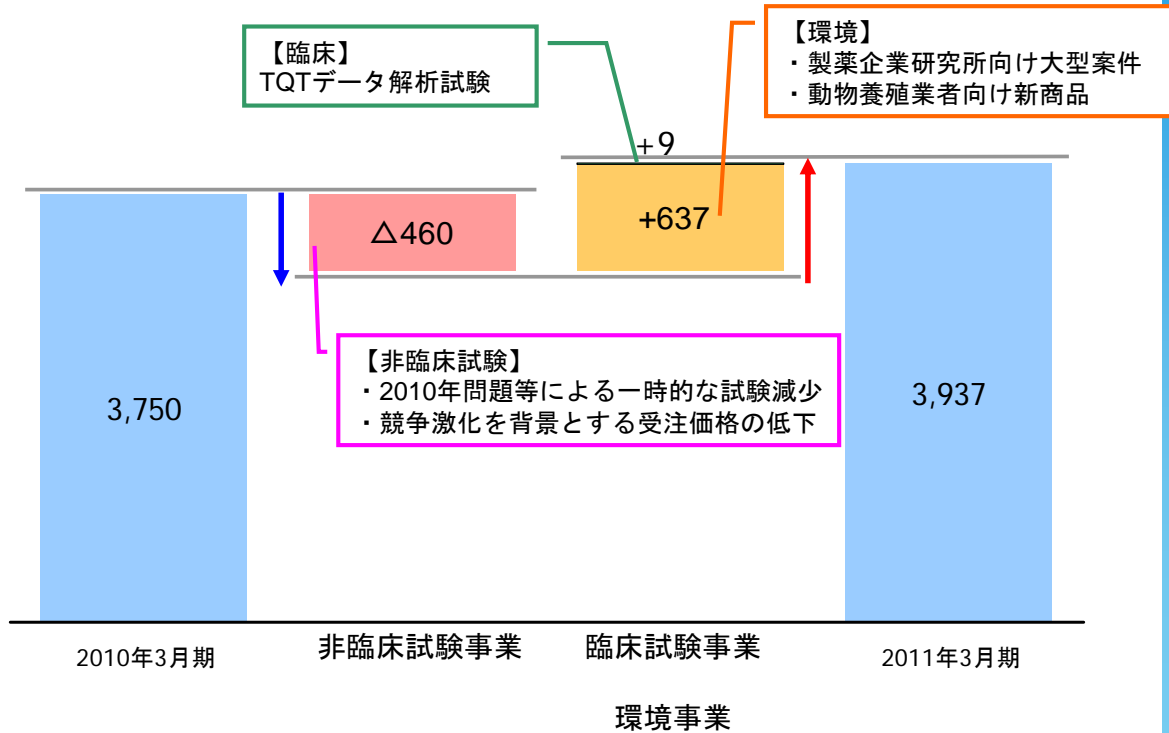
セグメント別 連結業績(前期との比較)

(単位：百万円)

		前期	2011年3月期	対前期	
		2009年4月-2010年3月	2010年4月-2011年3月	金額	増減率
非臨床試験	売上高	3,508	3,047	△460	△13.1%
	営業利益	296	134	△162	△54.7%
臨床試験	売上高	19	29	+9	+50.7%
	営業利益	△86	△36	△50	—
環境	売上高	223	860	+637	+285.4%
	営業利益	△41	31	+72	—

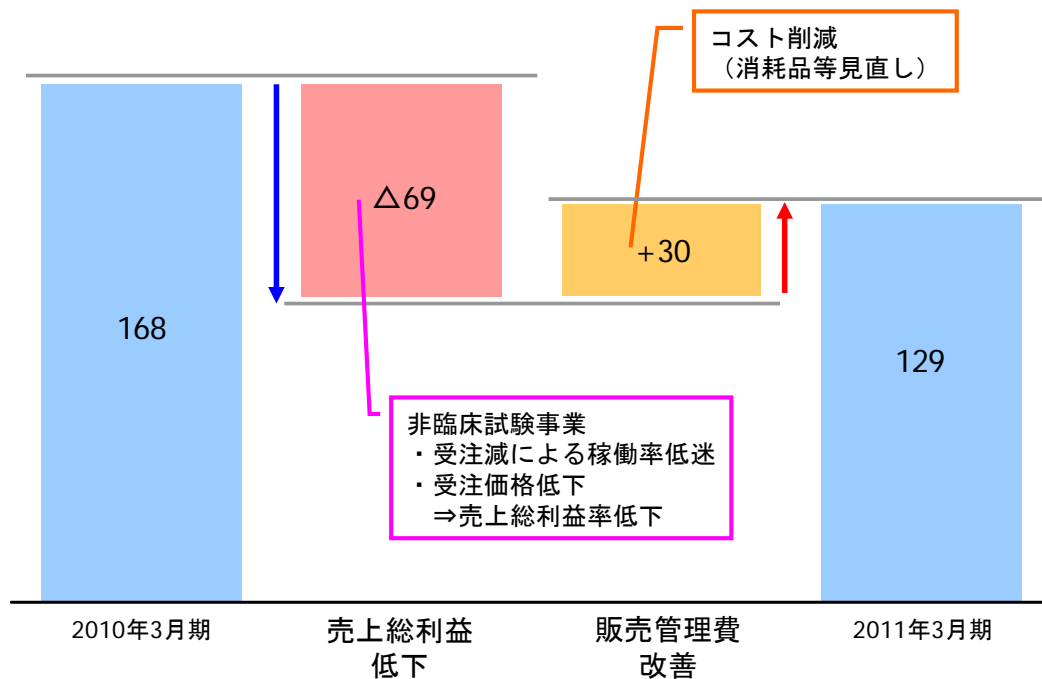
売上高増減内訳

(単位:百万円)



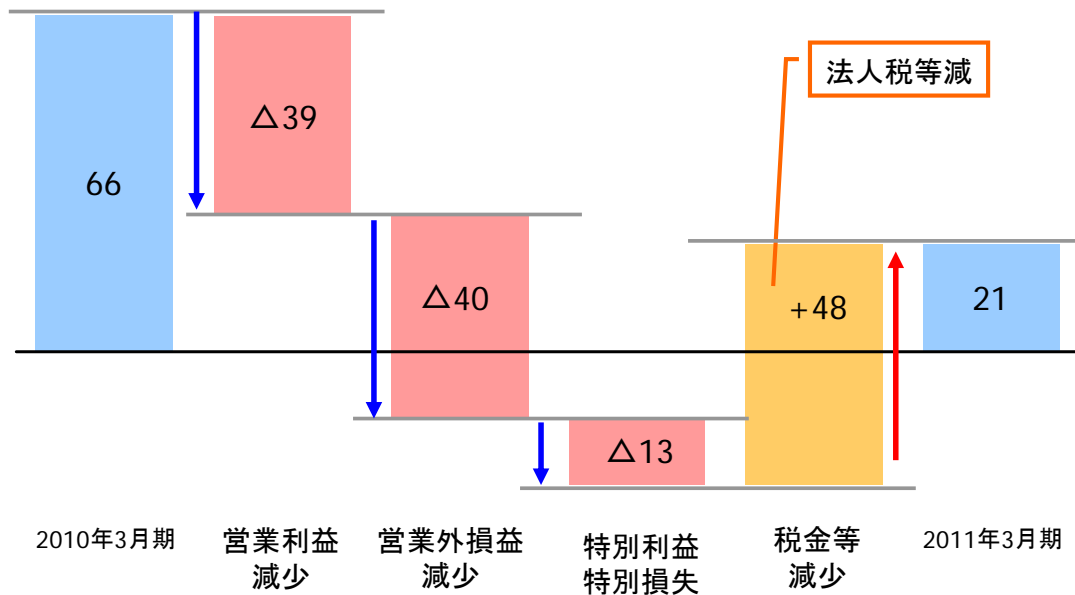
営業利益増減内訳

(単位:百万円)



当期純利益増減内訳

(単位:百万円)



キャッシュフロー

- 営業活動によるキャッシュフロー：
主たる増加要因：主力の非臨床試験の受注の回復による前受金の改善
- 投資活動によるキャッシュフロー：
主たる投資：新資料保存施設の建設
- 財務活動によるキャッシュフロー：
主たる獲得資金：社債発行による収入

(単位：百万円)

	前期 2009年4月-2010年3月	2011年3月期 2010年4月-2011年3月	対前期
営業活動によるキャッシュフロー	100	343	+242
投資活動によるキャッシュフロー	△594	△255	+339
財務活動によるキャッシュフロー	487	△40	△528
現金及び現金同等物の増減額	△5	42	+47
現金及び現金同等物の期首残高	306	300	△5
現金及び現金同等物の四半期末残高	300	342	+42

■配当実績及び当期配当について

1株当たり配当金

2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期
500円	1,100円	1,600円	500円	700円

※参考
2011年3月期 配当性向 97.8%

2. 受注状況について

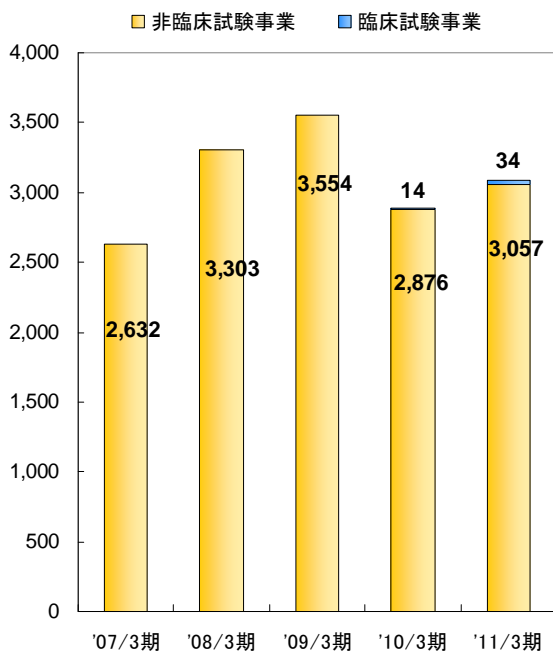
受注高・受注残高

(単位：百万円)

	受注高		受注残高		対前期	
	前期	2011年 3月期	前期	2011年 3月期	受注高	受注残高
非臨床試験事業	2,876	3,057	1,859	1,869	106.3%	100.6%
臨床事業	14	34	0	5	234.5%	941.7%
環境事業	813	253	617	10	31.1%	1.7%
合計	3,708	3,345	2,447	1,885	90.3%	76.1%

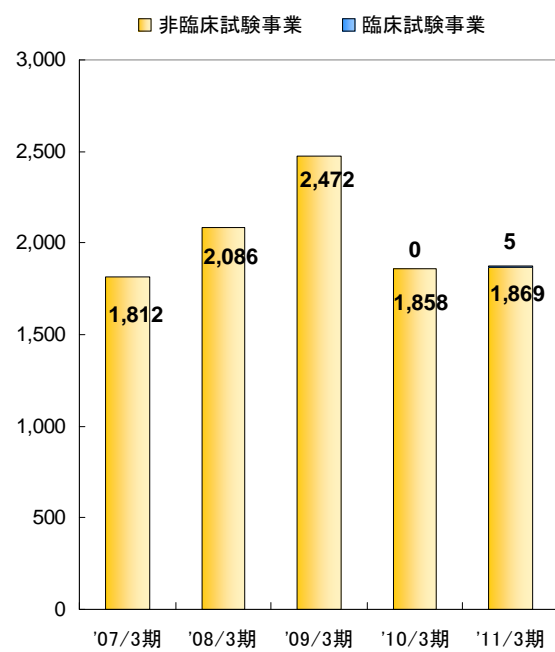
非臨床試験及び臨床試験 受注高・受注残高推移

(単位：百万円)



受注高推移

(単位：百万円)



受注残高推移

医薬品業界が成長期から成熟期への転換点を迎えている

- ◆ 全体的な成長時代から成熟期に入り、欧米大手製薬会社は大型新薬に依存する成長戦略から、競合が少なく利益率の高いニッチ市場をターゲットとする戦略に転換しつつある。低分子薬⇒バイオ医薬品
- ◆ 日・米・EUの規制当局の審査基準強化等により新薬承認数は横ばいながら新薬開発費は増加しており、開発の見直し・絞り込みが行われている
- ◆ 国内製薬会社の研究開発意欲は依然高いが、2010年問題もあり、一時的に新薬目前の臨床試験に投資をシフトしている

今後の動向

- ◆ バイオ医薬品の開発が盛んになるとヒトとの遺伝子相同性の高いサル試験の需要が高まる
- ◆ 開発費を抑えるための複合毒性試験への移行やFirst in Human（より早くヒトへ）を意識した動き（探索Phase I等）が加速する
- ◆ ニッチな希少疾病用医薬品（オファントラック）開発のための薬効試験が増加する

3. 次期（2012年3月期）の計画

2012年3月期 業績予想

(単位：百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	対2011年3月期	
	実績	予想	金額	増減率
売上高	3,937	3,864	△73	△1.9%
営業利益	129	177	+48	+37.4%
経常利益	74	128	+54	+73.2%
当期純利益	21	71	+50	+233.3%

2012年3月期 配当予想について

1株当たり配当金

2011年3月期	2012年3月期 予想
700円	800円

※参考
2012年3月期 配当性向 34.0%

4. 事業展望と課題の進捗状況

中長期の事業展望

Ina Research Inc.

売上目標：50億円 (2015年までに)

各事業の主な課題

- ◆ 非臨床試験事業：遺伝子解析を背景としたサル試験に注力、年率10%売上額を増やす。
- ◆ 臨床試験事業：サロQT試験、探索臨床試験の受注。米国Cardioco社との業務提携による心電図解析等周辺ビジネスの確立
- ◆ 環境事業：年4億円以上の安定した売上の確保と利益体質への転換



非臨床試験事業 1：サル試験事業の拡大

カニクイザル遺伝子解析

- ◆ 課題：アレルギー、自己免疫疾患、感染症、ワクチン、ガンなど関連遺伝要因が特定され、それを背景としたサル試験の需要が増大
- ◆ 進捗：1) 特性調査（東海大・信州大との共同研究）
 - ・ サンプル採取・保存を開始2) MHC調査（滋賀医大との共同研究）
 - ・ 科学技術振興機構（JST）の支援事業に採択（2010.10.19付）

AV-Blockサルモデルの利用拡大

- ◆ 課題：世界標準モデルとして大手製薬会社に利用される
- ◆ 進捗：米国大手製薬会社と基本契約締結。2012年3月期以降試験受託見込

非臨床試験事業 2：海外マーケットへの参入拡大

- ◆ 課題：欧州市場中心に早期に4億円の受託獲得
 1. 欧州市場：ヨーロッパ支所を中心に営業を推進
 - ・ イヌ、サルの一般毒性試験
 - ・ 薬効試験（幼若試験、病態モデル）
 - ・ 化学物質安全性試験
 2. アジア市場：韓国有数のパートナーとの協力体制維持
カバーしきれない部分は独自の販売網構築
 3. 米国市場：サルAV-Blockモデルの市場PR、販売強化
 4. 上記マーケットでの営業活動を通じて、欧米大手製薬会社の研究開発モデルの情報を入手し、当社の参画方法を検討
- ◆ 進捗：2011年3月期の受託実績は1億円程度
 - ・ 円高（為替レート）で受注獲得に苦戦

非臨床試験事業 3：信頼性向上への取り組み

- ◆ 課題：お客様ニーズへの、柔軟かつ迅速な対応
- ◆ 進捗：施設の新設・更新、試験システムの導入・稼動

資料保存施設の新設

2010年11月移設完了



新 資料保存施設

- ・ 資料保存施設の本社へ移設（新築）
- ・ 収容能力増強
- ・ セキュリティ、温湿度管理体制強化
- ・ 旧施設から全資料の移設を完了（破損・紛失・事故等ナシ）

AAALAC International 完全認証継続

2011年2月認証継続承認



AAALAC Internationalは、米国に本部を置き、科学における動物の人道的な管理を推進する観点から実験動物施設の評価を行う唯一の独立調査機関であります。これまでに世界の主要な医薬品及びバイオ技術企業、大学、研究機関等がAAALACの認証を取得しています。

→2010年11月に実地調査を受け2011年2月に完全認証継続のご承認をいただきました。

23

臨床試験事業 1

サロQT試験実施体制

- ◆ 課題：
 - ・ サロQT(Thorough QT)試験^{※1} の実施体制の構築
- ◆ 進捗：
 - ・ 米国Cardiocore Lab, Inc. ^{※2}との業務提携契約の締結
 - ・ 国内臨床試験施設との連携により、日本国内でのサロQT試験の実施体制確立



※1 サロQT試験
医薬品の循環器への副作用をヒト（健常者）により予測評価する試験

※2 Cardiocore Lab, Inc.
米国の権威ある心臓内科医であるDr. Lawrence Satinによって世界初の心電図中央解析ラボの一社として1992年に設立されました。以来、心電図解析・評価ならびにコンサルティングを始めとして、臨床試験における心臓安全性評価サービスの業界では常に先駆的存在として世界的に事業展開しており、各国規制当局及び製薬企業等からの信頼を得ております。

24

臨床試験事業の拡大

- ◆ 米国Cardiocore Lab, Inc. とのコラボレーション拡大
 - ・ 臨床試験全般の心臓安全性評価サービスに関する世界各国での共同営業活動
 - ・ 日本、韓国及びフィリピンにおいて当社がCardiocore社の総代理店となり、製薬企業及びバイオ企業等の臨床試験依頼者様ならびに実施医療機関に対する心電図検査に関する全てのサポート業務の実施
- ◆ 食品ヒト試験の拡販

環境事業

受注安定、利益体質構築

- ◆ 課題：
 - ・ 継続的な積極営業活動展開、プロモーション活動
 - ・ 超大型物件プロジェクトや国家プロジェクトへの参画
 - ・ 提携企業の販売網を活用した飼育器材の拡販
 - ・ 新商品の市場導入、拡販
 - ・ 定期メンテナンスの拡大による安定収益の確保
- ◆ 進捗：
 - ・ 脱臭新商品（カーボハニカム）の市場導入開始（2010年）
 - ・ 殺菌洗浄新商品（弱酸性ソフト水）の販売開始（2010年）→口蹄疫や鳥インフルエンザ等畜産業界・養鶏業界を根底から脅かす感染症について、弱酸性殺菌水の生産・供給装置ソリューション提供

提携先企業の販売網活用による拡販

- ◆ Non-GLP試験の拡大
- ◆ 全国の研究施設への実験用サルの販売
- ◆ 食品臨床試験のユーザー拡大
- ◆ 環境事業商品（空調システム、飼育器材等）の販売
- ◆ 韓国におけるサル試験の獲得

提携先技術の活用によるビジネス拡大

- ◆ TK分析のキャパシティ拡大

2012年3月期 課題：収益改善・確保への取り組み

受注・売上の確保と施設稼働率の改善

- ◆ 試験の受注、飼育／試験機器の販促
- ◆ サル試験の受注拡大による第7棟稼働率の向上⇒売上総利益率改善

原価・一般販売管理費の徹底した削減

- ◆ 重点投資案件以外の投資の圧縮
- ◆ 試験プロセスにおけるムダ取りの実施、工数削減
- ◆ 在庫レベルの見直しと内製化による原価削減
- ◆ 販売管理部門における徹底した人件費・経費抑制の継続

IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ
社長室 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー



Ina Research Inc.

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料に関するご注意

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2011年5月27日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2011年5月27日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。